



次世代のために

私たちの会は、今問題となっている地球環境(温暖化、環境ホルモン)などの学習や、身の回りの環境を調べ発表したり、講演会を開くなどさまざまな活動をしています。

会員は40名程度で、ほかの団体と比べると、女子高生をはじめとする若い女性が多いのが特徴です。

環境問題を考えるとき、どうしても男の人より女の人、自然に恵まれている地域の人より都会の人の方が興味を示すという傾向があります。

しかし、現在問題となっているものは、今生きている人が皆で知恵を出し合い、協力して解決していかなければならないものです。

私たちは月に1回(第3土曜日の午後)、中央公民館で運営会を持ち、また、昨年度から公民館まつりにも参加しています。よりよい環境を後世の人たちに残すべく、多くの方々の参加を願っています。

(連絡先 高野滋夫 ☎24-5238)



市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する地名をはっきり書き、〒989-0257白石市字巨理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

高橋 辰男 選

千柿のゆれる影をながめつつ夕陽の縁に障子張りする 大津 重子
星の夜のライトアップに白石の城青白く間に浮きたつ 高子うこん
新世紀を迎えわが弾く大正琴の響く音うれし部屋に満ち満ち 山田 濱
有難う御苦労さんと手に受けぬ吹雪の中來し郵便屋さんに 佐藤 ひで
何時しかに小鳥ついでみ南天の残る朱実に雪のかかれり 平間 久子
はやばやと年始会より夫帰り同年代の友居なくとてと言つ 岩松 貞子
壮嚴な鐘の音響き窓見れば除夜の火花が華麗に咲きぬ 村山美代子
年の始めに家族の幸を願いつつ老い二人神に参るよろこび 佐藤 とく
重き雪今日はゆるみ解けるらし夕餉しおれば雪なだれ落つ 川村 静恵
新世紀穏やかに明け人の波一般参賀に橋渡り行く 黒沢 修子

評 一首目。干しがきの影と障子張りする作者が無理なく融合して、年末の情景を醸している。二首目。ライトに照らされた夜のお城の美しさを、単純化してすっきり下句に写生した。三首目。まさに新世紀の意義ある初弾きで、いつもと異なり改まった雰囲気の中。

俳壇

遠藤 秋尾 選

百年の一步天守の初日の出 岩沢 伍肇
新世紀小さな一步初暦 日下 文
出産の牛に躰足す寒の入り 高橋 正男
どか雪を掻いて寝込んでしまいきり 山家 弘子

柳壇

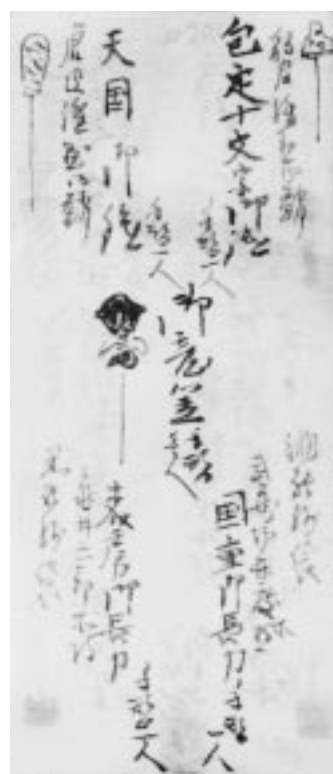
山田 風流 選

新茶汲む心静かに俳誌読む 三浦 愛嶺
母よりの京紅うすく初顔 佐藤 周子
一枚の賀状に君の安否知る 制野 リエ
初孫がいて賑やかな大晦日 大庭 良子
南天の雪をゆさぶる番鳥 川村 静恵
ドカ雪に人も車もままならず 高子たちばな
向日葵の時にさびしき日暮かな 高橋 千秋
評 新春おめでたく存じます。二十一世紀を迎え、心新たに俳句の選をさせていただきますので、どうか素晴らしい句をご投句くださいますようお願い申し上げます。

国会が開かれるたび負担増え 高橋 要一
修業しても煩惱年を越し 大庭 良子
新世紀は少し捨てようサングラス 日下 猛
百葉の長効いてポロリ出る本音 米沢 礼子
言い訳を先回りされ黙り込み 四電 英夫
春だからたまには爪を染めてみる 平間 大恵
折り込みが日に日にかさむ十月 佐藤 武雄
初鏡見なきやよかつた顔のしわ 川村 静恵
この先は妻に託した余命表 草野 清
初売りにランドセル買った神棚へ 大沼 妙子

評 一句目。公共工事を見直しながらバラまきは従来通り。介護保険、医療費負担増など国民の負担は増えるばかり、やがて消費税も。二句目。人間修業を積んだつもりでも次から次へと欲が芽を出し、煩惱は尽きない。三句目。新世紀を迎えたのだから今までは心機一転、物事を見る視野や考え方を変えようとの作者の心意気に共感。暗いニュースがいやに多い最近ですが、清く、正しく、明るい視点からの作句をいたしましょう。

白石の古文書 ⑪



白石の古文書 ⑪
御城御掃除方引立役に付き、三十日前から始まつており、御成御座の間・御寝所・御小書院・御小広間・御弓場御座敷・奥方御座敷などの掃除役に、二人から四人の家臣がそれぞれ配置されている。警護も厳重で、御通筋見廻り・御家中屋敷見届役・街道上廻をはじめ、各村々にも主立った家臣が警備に当たり、白石川川越には、家中九人と不断組六十人、町之者五十人が配置されている。児捨川・松川なども同様である。接待役なども細部にわたっている。後半は、入部の行列順が書かれている。御足輕組頭を先頭に鉄砲組が五十挺・弓組・長柄槍組などや御供衆が延々と続く。総人数千四百七十七人とある。(白石図書館蔵)

表紙とも六十五丁、5・5×14cmの小冊である。
伊達十三代藩主慶邦公が、天保十二(一八四一)年襲封し、翌十三年五月、仙台に初入部、初めて国元仙台に入る(の)ときの記録である。このときは白石城に宿泊し、仙台に向かったのだが、片倉家は総力を挙げて、その接待や警護に当たっている。
記録の前半は、宿泊所となった白石城、城下、街道筋、近隣諸村々までの警護・接待の役割の人たちの名前が書かれている。家臣・不断組・医師・町役・村役人など、ほとんど総出役といつてもよい。その役割も微に入り、細にわたるといふか、数も多い。
例えば、家老・着座級の四人が、

国際コーナー International Corner



皆さん、こんにちは!もう3月に入りました。あっという間ですね。暦の上では、もう春の季節です。私は春について考えるとき、桜とか暖かい日を思い浮かべますが、それはまだまだですね。

日本では、アイルランドにない習慣と祭りがたくさんあります。その一つが「節分」です。先月、私は白川保育園で、「豆まき会」に参加しました。豆まきは初体験でとても楽しかったです!子供たちは自分で作った鬼の面をかぶって、鬼の役を演じ、年女の私はきものを着て、福の神になりました!それで、豆をまきながら、「鬼は外、福は内」を大声で叫びました。その後、子供たちが節分の歌を歌ってから、皆でおいしい豆を食べ、また、お昼の時間にはおいしい「鬼ハンバーグ」も食べました!自分の年の数だけの豆を食べると、これから一年病気になる!というので、節分にちゃんと食べました!

日本に来る前に、節分については豆をまくことしか分かりませんでした。しかし、これ以外にも、

いろいろな行事があるということを知り、本で読みました。特に面白いと思ったのは、その年の恵方(えほう)を向いて、太い巻き寿司を丸ごと無言で食べることです!そうすると、一年間よいことがあると本には書いてありました。皆さんはどうですか?食べましたか?



白川保育園の皆さん、ありがとうございました。とてもよい思い出になりました。